# 依頼行動における個人情報要求への負担度に関する一考察

## ―韓中日３ヶ国の大学生を中心に―

任榮哲*·金允喜**
yim1120@cau.ac.kr, yuly7@hanmail.net

Contents

Ⅰ. はじめに
Ⅱ. 先行研究
Ⅲ. 調査のデザインおよび調査概要
Ⅳ. 分析結果
Ⅴ. まとめ

Abstract

本研究は、韓中日3ヶ国の大学生の依頼行動における個人情報の要求に対する負担度について、アンケート調査とインタビュー調査、そしてフォローアップインタビュー調査を行い、その実態を明らかにすることを目的とする。考察の内容をまとめると以下の通りである。

（１）韓中日3ヶ国ともに、相手の「年収」に関する情報を聞き出すときに負担度が一番高く、次に「住居形態」である。そして「住所」に関する情報を聞き出すときに負担度が一番低いことが窺える。つまり、個人情報の中で「年収」や「住居形態」を聞き出すというのは負担度が高く、「住所」はそれほど負担度が高くないということで、これは3ヶ国ともに共通している。また、「結婚の可否」に関しては日本のほうが韓国と中国に比べて負担度が高いということで、日本人には慎重を要する個人情報であると言えよう。

（２）アンケート調査では、韓国は「住所<結婚の可否<年齢<最終学歴<職級<住居形態<年収」の順に負担度が高くなる。しかし、「結婚の可否」では揺れが見られ、アンケート調査ではその割合が低いが、FUインタビュー調査ではその割合が高い。つまり、「結婚の可否」は実際の場面では聞きづらい個人情報になっているということで、「結婚の可否」は個人の基本情報ではなく、負担度の高い情報であるということがわかる。

（３）韓中日3ヶ国ともに、個人の基本情報と考えられる「住所」や「年齢」を聞き出すのは負

＊ 中央大学校人文大学教授、日本語学専攻。
＊＊ 中央大学校大学院博士課程、日本語学専攻。

교보문고 KYOBO Book Centre

担度がそれほど高くないが、「年収」や「住居形態」、そして「結婚の可否」は個人の機敏な情報として位置づけられ、慎重に聞き出そうとする傾向にあることがわかる。

（4）談話資料の意味機能別の分類では、韓国では「簡略化＜情報要求＜情報提供＜謝罪」、中国では「情報要求＜簡略化＜謝罪＜情報提供」、日本では「情報提供＜簡略化＜謝罪」の順に出現数が高い。なお、中国と韓国の意味機能の出現数のパターンは似ているが、日本は中国や韓国とは違い、負担度を減らすために用いる表現に差があることが窺える。

今回の調査から得られた結果は以上であるが、このような研究は今後の韓中日3ヶ国の異文化間コミュニケーションに多く貢献できると考えることができる。

Key Words ： 依頼行動、談話分析、異文化コミュニケーション、個人情報
(Request Behavior, Discourse Analysis, Intercultural Communication, Private information)

# Ⅰ. はじめに

管見によれば、これまでの言語行動に関する研究はアンケート調査によることが多かった。そこで本研究では、韓中日3ヶ国の大学生(以下、韓中日3ヶ国と略称する)の依頼行動における個人情報の要求に対する負担度について、アンケート調査とインタビュー調査、そしてフォローアップインタビュー調査[1](以下、「FUインタビュー調査」と略称する)を行い、その実態を明らかにすることを目的とする。

具体的には、相手の個人情報の開示を要求する依頼場面を設定し、まず、韓中日３ヶ国の大学生の母語話者の依頼内容に対する負担度を明らかにする。そして、依頼場面で使われる表現のパターンを調べ、意味機能の実態を明らかにする。

分析はまず、依頼場面を想定した時の負担度(予想した負担度＝意識上の負担度)と実際の依頼場面で依頼を行った後の負担度(実際の負担度＝場面による負担度)を比較する。そして、負担度の高い個人情報を聞き出そうとする時に、一定のパターンが見られるかどうか、そのメカニズムの解明に焦点を当てて考察を行う。但し、男女別による差は現れなかったので、分析からは除く。分析に用

1) ネウストプニー(1994)によると、FUインタビュー調査は被調査者の行動時の意識を知るために積極的に使うべき研究方法であると紹介されている。

교보문고 KYOBO Book Centre

いるデータは、以下のような内容である。

①依頼場面を想定した時の負担度：アンケート調査で得られたデータを用いる。

②実際の依頼を行った後の負担度：ＦＵインタビュー調査で得られたデータを用いる。

③依頼の時に用いる表現：インタビュー調査で相手との談話で得られたデータを用いる。

## Ⅱ．先行研究

依頼行動に関する先行研究を調べてみると、多様な視点や方法論を取り入れた研究が行われているが、ここでは異文化間コミュニケーションと関係のある研究と依頼行動における配慮表現や依頼のストラテジーについて焦点をあて概略する。

まず、韓日の異文化間コミュニケーションを扱った研究として任栄哲･井出(2004)がある。ここでは韓国人と日本人の言語行動の相違点と非言語的なコミュニケーション様式の違いを分析し、それがディスコミュニケーションの原因に繋がる可能性があることを指摘している。特に、挨拶、謝罪、会話の進行方式、人間関係など異文化間コミュニケーションに関する基礎知識を提供している。

依頼行動について配慮表現およびストラテジーに焦点をあてた研究には嚴廷美(1999)、尾崎喜光(2005)、柳慧政(2007)、任榮哲･林之賢(2009)などがある。まず嚴廷美(1999)は、韓国語と日本語の依頼行動を発話機能の単位であるムーヴという観点を取り入れて分析を行っている。その結果、韓国語と日本語の両言語ともに「情報提供」+「依頼」を基本パターンにしていることが明らかになった。特に、日本語では「謝罪」+「情報提供」+「依頼」のパターンが、韓国語では「情報提供」+「約束」+「依頼」のパターンが特徴的であることがわかった。また、日本

교보문고 KYOBO Book Centre

語では対人配慮のストラテジーをより多く使うのに対して、韓国語では目的を効果的に達成するための依頼ストラテジーが使用傾向として高いことも確認されている。

尾崎喜光(2005)では、依頼の「負荷の大小による手紙出し」と「本買い」の場面を設定し、アンケート調査を行った。依頼の相手の設定も「家族」「友達」「最近知り合いになったばかりの年齢が近い人」の3種である。調査の結果から、対人距離が近い相手に対し、また重い内容の依頼をする際に、日本より韓国で依頼をする人の割合が高く現れた。

柳慧政(2008)では、「友達にノートを借りる」「先生に本を借りる」場面を設定し調査を行い、依頼の開始から終了までを分析対象とした。ここでは依頼者が目的を達成するため、そして相手を配慮するため、どのようなストラテジーをどのような状況で用いるのかを明らかにしている。分析の結果、韓日ともに「理由」「依頼」「感謝」を多く使うが、韓国では「保障」と「補償」が、日本では「謝罪」と「仕上げ」が特徴的であることがわかった。そして、依頼者のストラテジーは依頼が成立する前だけではなく、依頼が成立した後にも現れたことが興味深い。

任榮哲·林之賢(2009)では、「荷物預け」と「釣銭確認」という依頼場面を設定し、どのようなコミュニケーションの機能が使われているかを分析し、その中で配慮表現の現れ方における韓日両国の異同を考察した。その結果、韓日両国ともに「荷物預け」の場面が「釣銭確認」の場面よりも機能的要素の使用率が高かった。特に、韓国では「注目喚起」と「呼称」の機能が、日本では「すみませんが」のような「恐縮を表明」する機能が多用されることがわかった。

以上のように、従来の研究から依頼の場面を調べてみると「ペンやノートを借りる依頼」、または「お金を借りる依頼」のような設定であり、調査方法もほとんどがアンケート調査である。しかし本研究は、「個人情報要求への依頼」という新しい観点による場面を設定したこと、そして談話データに現れた表現の事例とともに、FUインタビュー調査で得られた被験者の発話意図を加え、信憑性を高めたことは、依頼行動研究における新たな試みであると言えよう。

교보문고 KYOBO Book Centre

# Ⅲ. 調査のデザインおよび調査概要

## 3.1 調査のデザイン

まず、韓中日3ヶ国の依頼行動における個人情報の要求に対する負担度を調べるため、次のような場面を設定した。

> A航空会社が実施するアメリカの大学の訪問プログラムがあることを知り、そのプログラムに参加することにする。プログラムに必要な書類として、申込書、保証人としての指導教官の同意書が要る。同意書には**指導教官の個人情報(年齢、年収など)を記入する**項目があり、あなたの保証人になることを承諾するという署名が必要である。この二つの書類は必ず提出しなければならない。これ以外に指導教官の推薦状があれば審査に反映されるという規定がある。

### 1) アンケート調査

前述(3.1)のような場面を設定し、アンケート調査では、指導教官に個人情報の開示を要求する時に、どのくらい負担を感じるかについて尋ねた。個人情報の開示を要求する項目は、次の７つである。

(1) **住所**を聞く(　　)
(2) **年齢**(満__歳)を聞く(　　)
(3) **結婚の可否**(既婚・未婚)を聞く(　　)
(4) **年収**はどれくらい(何百万円)かを聞く(　　)
(5) **住居形態**は自宅(持ち家)、賃貸などのどれかを聞く(　　)
(6) **職級**は教授、助教授(准教授)、専任講師、非常勤講師のどれかを聞く(　　)
(7) **最終学歴**は博士学位の取得、修士学位の取得のどれかを聞く(　　)

選択肢は、①全く負担を感じない ②あまり負担を感じない ③普通である ④少し負担を感じる ⑤非常に負担を感じる、の５つの中から選んで、その番号を(　)

교보문고 KYOBO Book Centre

の中に記入してもらった。

### 2) インタビュー調査

インタビュー調査は、アンケート調査が終わった後、ロールプレイの方式で行い、実際の依頼場面での談話データを収録した。収録したデータは、それぞれの言語で文字を起こし分析に用いた。

### 3) FUインタビュー調査

FUインタビュー調査は、インタビュー調査が終わった直後に行い、被験者の言語行動の意図や感想を語ってもらった。FUインタビュー調査の調査票は次のようである。

follow-upインタービュー 調査票 (録音すること)

**1. 指導教官に一番質問しにくかったのはどれですか？**

2. 指導教官の質問の中で、一番答えにくかったのはどれですか？

3. インタービューの前にイメージした通りに、質問したり答えたりすることができたと思いますか。

4. 指導教官への依頼行動に気になるところがあれば、どんなところですか。

5. インタービューの前にイメージした通りに、表情やジェスチャーをすることができたと思いますか。できなかったところがあれば、どんなところですか。

6. あなたの表情やジェスチャーに不十分な点があったとすれば、それは何ですか。

7. 今回の調査が実際の状況だった場合、あなたは自分の目的(推薦状の依頼)が果たせると思いますか。

8. 今回の調査が実際の状況だった場合、自分の言語行動は、指導教官に対して十分配慮できたと思いますか。

9. 今回の調査が実際の状況だった場合、あなたは推薦状を依頼するために指導教官を訪ねたと思いますか。あるいは、依頼するのが難しくて諦めたと思いますか。

▶(ここからは外国人だけに尋ねます)

교보문고 KYOBO Book Centre

10. あなたの話し方は、日本人に似ていると思いますか。
もし、違うと思うのなら、どんなところですか。
11. 調査の中で、もしも指導教官が母国の先生で、母語を使って依頼できたとしたら、今回の調査と違ったと思いますか。
(1) 推薦状を依頼するという目標が達成しやすかったと思う。
(2) 指導教官に配慮した言語行動がもっとできたと思う。
(3) 指導教官の話にもっとうまく対応できたと思う。
(4) 表情やジェスチャーなどがもっと自然だったと思う。
(5) 個人情報を聞くのがもっと楽だったと思う。

以上のように3つの調査方法を取り入れたのは、分析資料への信憑性を高めるためである。そして、得られた資料はエクセルでコーディングし分析を行った。なお、推薦状の依頼そのものに対して負担を感じるという被験者の回答は分析から除外した。

## 3.2 調査概要

アンケート調査とインタビュー調査、そしてFUインタビュー調査の概要は、次の通りである。[2)]

### 1) アンケート調査の概要

・韓国：2009年 5月~6月
中央大学校、416名(男183名、女233名)
・中国：2009年 4月~5月
北京外国語大学、380名(男102名、女241名、無回答37名)
・日本：2009年 7月~2010年 5月
東京大学・早稲田大学・横浜国立大学・明海大学・実践女子大学・清泉女子大学・首都大学東京、414名(男150名、女263名、無回答1名)

2) 詳しい調査のデザインについては、李吉鎔(2011)を参照されたい。

교보문고 KYOBO Book Centre

2）インタビュー調査の概要

・韓国：2009年5月11日～6月11日、中央大学校
　インタビュアー：40代の女性教授、被験者：韓国語の母語話者10名（男5名、女5名）
・中国：2009年4月19日～23日、北京外国語大学
　インタビュアー：40代の女性教授、被験者：中国語の母語話者11名（男3名、女8名）
・日本：2009年10月18日～22日、東京大学
　インタビュアー：50代の女性教授、被験者：日本語の母語話者10名（男5名、女5名）

3）FUインタビュー調査の概要

FUインタビュー調査は、インタビュー調査が終わった直後に行ったので、インタビュー調査と同様である。

# Ⅳ. 分析結果

## 4.1 個人情報の負担度

＜表１＞は、アンケート調査で得られた個人情報の項目別の負担度について一人当たりの平均値を表したものである。また＜表２＞は、FUインタビュー調査で答えてもらった項目の上位３位までの割合を表したものである。そして、アンケート調査とFUインタビュー調査の結果とを比較するため、＜表１＞を百分率化し、＜表２＞と比較したのが＜図１＞＜図２＞＜図３＞である。なお、図中の「A」は「アンケート調査」、「FU」は「フォローアップインタビュー調査」、「韓」は「韓国」、「中」は「中国」、「日」は「日本」を、それぞれ表す。

교보문고 KYOBO Book Centre

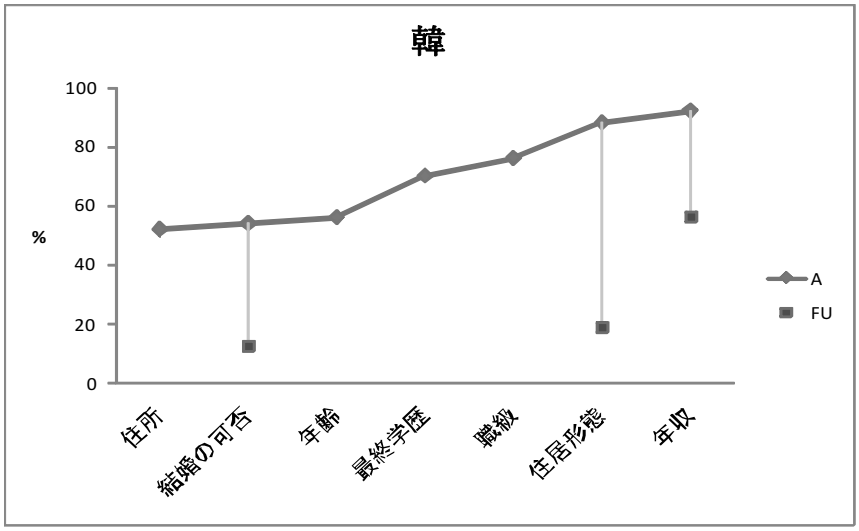
〈表1〉アンケート調査での負担度

| 項目＼国 | 韓国 | 中国 | 日本 |
|---|---|---|---|
| 年収 | 4.6 | 3.7 | 4.5 |
| 住居形態 | 4.4 | 3.4 | 3.9 |
| 職級 | 3.8 | 2.9 | 2.8 |
| 最終学歴 | 3.5 | 2.7 | 3.0 |
| 年齢 | 2.8 | 2.3 | 2.9 |
| 結婚の可否3) | 2.7 | 2.6 | 3.3 |
| 住所 | 2.6 | 1.9 | 2.8 |

〈表2〉FUインタビュー調査での負担度(上位3位まで) 単位(%)

| 順位＼国 | 韓国 | | 中国 | | 日本 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 年収 | 56.3 | 年収 | 50.0 | 年収 | 55.6 |
| 2 | 住居形態 | 18.8 | 住居形態 | 37.5 | 結婚の可否 | 33.3 |
| 3 | 結婚の可否 | 12.5 | 結婚の可否 | 12.5 | 住所 | 11.1 |

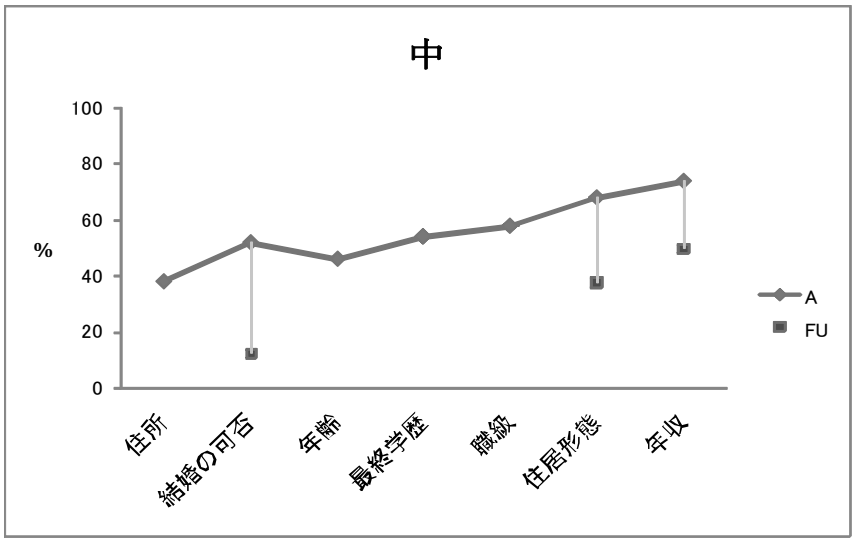
〈図1〉韓国人の個人情報別の負担度



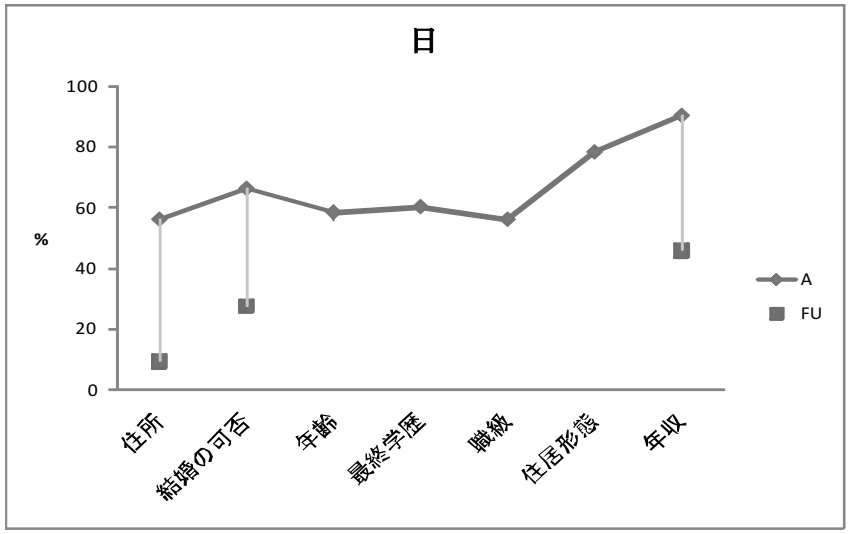

3)「結婚の可否」の意は、結婚しているか結婚していないかの意味である。以下同様である。

교보문고 KYOBO Book Centre

＜図2＞ 中国人の個人情報別の負担度




〈図3〉日本人の個人情報別の負担度




＜表１＞＜表２＞と＜図１＞＜図２＞＜図３＞から、次のようなことが言えるであろう。

（1）韓中日3ヶ国ともに、「年収」に対する負担度が他の項目に比べて一番高く、

교보문고 KYOBO Book Centre

次に「住居形態」である。そして、負担度が一番低いのは「住所」であることが窺える。つまり、個人情報の中で「年収」や「住居形態」を聞き出すという行為は負担度が高く、一方で「住所」にはそれほど負担を感じないということで、これは韓中日3ヶ国ともに共通している。また、「結婚の可否」に関しては日本のほうが韓国と中国に比べて負担度が高く、日本人には避けるべき話題と言えよう。

（2）アンケート調査では、韓国は「住所＜結婚の可否＜年齢＜最終学歴＜職級＜住居形態＜年収」の順に負担度が高くなる。しかし、「結婚の可否」では揺れが見られ、アンケート調査ではその割合が低いが、FUインタビュー調査ではその割合が高い。つまりこれは、「結婚の可否」は実際の場面では聞き出しづらい個人情報になっているということで、「結婚の可否」という情報は個人の基本情報ではなく、負担度の高い情報であることがわかる。[4)]

（3）以上の結果をまとめて図式化すると＜図4＞のようになる。韓中日3ヶ国ともに、個人の基本的な情報と思われる「住所」や「年齢」を聞き出す負担度はそれほど高くないが、「年収」や「住居形態」、そして「結婚の可否」を聞き出すのは個人の機敏な情報として位置づけられ、慎重に聞き出そうとする傾向にある。すなわち、「個人の基本情報＜職業上の情報＜機敏な情報」の順に負担度が高いことがわかる。

〈図4〉個人情報別の負担度

4) FUインタビュー調査で、JJ08F26が「教授が女性だから」と答えたように、実際の状況では話し手が年上の女性の教授であったことも、負担度を高める一因だと考えられる。

교보문고 KYOBO Book Centre

## 4.2 個人情報の事例分析

では、インタービュー調査の結果から、韓中日3ヶ国の大学生は負担度を減らし、目的の個人情報を聞き出すために、どのように表現しているか、そのストラテジーについて談話資料から調べることにする。

分析は、韓中日3ヶ国のインタービュー調査で得られた談話資料を、意味機能別[5]に分類し、各国における意味機能の用例を示したのが＜表３＞である。なお、用例の( )中の、KKは韓国調査の韓国人の大学生、CCは中国調査の中国人の大学生、JJは日本調査の日本人の大学生、数字は被験者の番号、Mは男性、Fは女性、そしてMやFの後ろの２桁の数字は被験者の年齢である。

〈表3〉意味機能の分類

| 意味機能 | 説明 | 国 | 用例 |
|---|---|---|---|
| 情報提供 | 聞きづらい項目を質問する前に前置きのように説明をする機能 | 韓 | 담에 좀 질문에 좀 그런데요. 연봉이...（KK03F23） |
| | | 中 | 他這个是，可能是作为一个程序吧。而且都比較厳格。（CC02F23） |
| | | 日 | 結構、個人的なことなんですけど、（JJ06M20） |
| 情報要求 | 当然のことだと確認する方法の機能 | 韓 | 자택이시죠?（KK05M23） |
| | | 中 | 級別是正教授対吧？（CC08F23） |
| | | 日 | |
| 謝罪 | 謝りをする機能 | 韓 | 정말 실례지만, 그 수입이 어떻게 되시는지 알려주실 수 있겠습니까?（KK06M23） |
| | | 中 | 不好意思，下一个就該問您的年齢了、（CC03F27） |
| | | 日 | すみませんがお名前のほうを（JJ01M20） |
| 簡略化 | ‘およそ’、‘ざっと’などの表現を用いて負担を軽減する機能 | 韓 | 그리고 수입을 좀 대략적으로、（KK07M22） |
| | | 中 | 您的収入大概多少？（CC07F22） |
| | | 日 | 年収もおおよそでいいので、（JJ02F22） |

次の＜表４＞の意味機能の分類をみると、韓国では『簡略化＜情報要求＜情報提供＜謝罪』、中国では『情報要求＜簡略化＜謝罪＜情報提供』、日本では『情報提供＜簡略化＜謝罪』の順に出現数が多く表れた。そして各国ともに、『謝罪』に対する出現数が多い中、その中でも特に日本の出現数が非常に多い。これは注

5) 意味機能の分類は、生駒知子・志村明彦(1993)を参照した。

교보문고 KYOBO Book Centre

目に値する結果である。なお、中国と韓国の意味機能の出現数のパターンは似ているが、日本は中国や韓国とは違い、負担度を減らすために用いる表現に差があることが窺える。

〈表4〉意味機能の分類による出現数

| 国 / 機能 | 韓国 | | 中国 | | 日本 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 出現数 | 一人あたり平均出現数 | 出現数 | 一人あたり平均出現数 | 出現数 | 一人あたり平均出現数 |
| 情報提供 | 13 | 1.30 | 12 | 1.09 | 6 | 0.60 |
| 情報要求 | 6 | 0.60 | 3 | 0.27 | 0 | 0.00 |
| 謝罪 | 17 | 1.70 | 9 | 0.82 | 50 | 5.00 |
| 簡略化 | 5 | 0.50 | 5 | 0.45 | 7 | 0.70 |
| 合計 | 41 | 4.10 | 29 | 2.64 | 63 | 6.30 |

では、言語行動における談話の用例から各国の特徴を具体的に見てみよう。

## 1）韓国

＜表４＞の意味機能の分類による出現数からもわかるように、韓国では『謝罪』が最も多いものの、『情報提供』の機能も多く使われている。一方、『情報要求』は中国や日本に比べ、その出現数が多くみられた。□の中の談話が、その例である。

(KK10M26)

| (韓国語) | (日本語訳) |
|---|---|
| 教授: 음. 자 그럼 질문하면 내가 대답을 하면 되는 거구나. | 教授：うーん。じゃ、質問したら、私が答えればいいよね。 |
| 学生: 아, 예. 좀 부탁드리겠습니다. | 学生：あ、はい。お願いします。 |
| 教授: 자, 그럽시다 | 教授：では、はじめましょう。 |
| _____분석대상 시작_____. | _____分析対象始め_____. |
| 学生: 예. 죄송한데 성함 좀 말씀... | 学生：はい、すみませんが、お名前は... |
| 教授: 자, ○○○. | 教授：じゃ、○○○。 |
| 学生: ○자 ○자 ○자 교수님 맞으시고, 교수님 지금 저희 ○○대학교 ○○학과 | 学生：○○○教授で、先生、今○○大学校○○学科、 |
| 教授: 응 | 教授：うん。 |
| 学生: 학과장님으로 소속되어 있는 거 맞으시죠? | 学生：学科長として所属してらっしゃいますよね？ |

교보문고 KYOBO Book Centre

| | |
|---|---|
| 教授: 응. | 教授：うん。 |
| 学生: 지금 사시는 댁이 어디신지. | 学生：今の自宅の方はどちらでしょうか。 |
| 教授: 자 용산구 | 教授：じゃ、ヨンサン区、 |
| 学生: 서울 용산구 | 学生：ソウルヨンサン区、 |
| 教授: 원효로1가 | 教授：ウォンヒョ路1街、 |
| 학생: 원효로1가 | 学生：ウォンヒョ路1街、 |
| 教授: 현대아파트 | 教授：ヒョンデアパート、 |
| 学生: 현대아파트 | 学生：ヒョンデアパート、 |
| 教授: 101호 | 教授：101号、 |
| 学生: 백 | 学生：ひゃく、 |
| 教授: 1호. | 教授：1号、 |
| 学生: 101호? 예. 그리고 죄송한데 지금 연세가, | 学生：101号?はい、それから、すみませんが、今のご年齢は? |
| 教授: 연세? | 教授：年齢？ |
| 学生: 만으로 | 学生：満で、 |
| 教授: 만으로? | 教授：満？ |
| 学生: 예. | 学生：はい。 |
| 教授: 자 마흔이네. | 教授：じゃ、40。 |
| 学生: 아, 예, 알겠습니다, 교수님. 결혼하셨죠? | 学生：あ、はい、分かりました。先生、ご結婚なさっているんですよね？ |
| 教授: 응. 했지. | 教授：うん、している。 |
| 学生: 아, 교수님 이거 조금 민감할 수도 있는 질문이긴 한데. 교수님, 그 연봉이 한 어느 정도 되시는지. | 学生：あ、先生、これ、少し敏感な質問ですけど、先生、その、年収はどれぐらいか、 |
| 教授教授: 연봉? | 教授：年収? |
| 学生: 네, 대략. | 学生：はい、およそで。 |
| 教授: 대략. 자, 연봉 4천. | 教授：およそ、じゃ、年収4千。 |
| 学生: 네, 4천. 지금 아파트 살고 계신 아파트 살고 계신 거 맞으시죠? | 学生：はい、4千。いま、アパートに住んでいらっしゃるんですよね？ |
| 教授: 거기 문항이 뭐뭐 있어? | 教授：そこの項目には何々があるの？ |
| 学生: 예? 여기요? | 学生：はい？ここですか？ |
| 教授: 아니 그 난에. | 教授：いいえ、その欄に、 |
| 学生: 아, 예. 자택, 전세, 월세. 아 이거는 그거 이게 아니고...제가 좀 착각을... 지금 자택이시죠? 거기 월세, 뭐 전세 아니시고. | 学生：あ、はい、自宅(持ち家)，賃貸(伝貰、月貰)、あ、これは、あの、これじゃなく、私が勘違いを... いま持ち家ですよね？あの賃貸などではなく、 |
| 教授: 응, 아니 근데 동의서에 왜 그런 항목까지 있어야 할까? | 教授：うん、いや、でも、同意書になぜそのような項目まで必要なの？ |
| 学生:이게 아무래도 미국이 비자 받을 때도 어떤 그런 재산 이렇게 증명하는 통장을 같이 증명해야 되잖아요. | 学生：これは、やはりアメリカのビザを取得する時に、そのような証明できる通帳のように証明しなければならないじゃないですか。 |
| 教授: 음 | 教授：うん。 |
| 学生: 그런데 이 보증하시는 분도 어느 정도 그런 그러니까 부모님은 아니시긴 하지만 학교에서는 저의 부모님처럼 돌봐주시는 분이니까. | 学生：それで、この保証人の方も、ある程度、だから、両親ではないけど、学校では私の両親のように面倒を見てくれる方ですから、 |
| 教授: 음 | 教授：うん。 |

교보문고 KYOBO Book Centre

| | |
|---|---|
| 学生: 어떤 그런 재정적인 이런 것도 필요한 것 같아서 이렇게 한 것 같습니다. 잘은 저도 잘 모르겠는데.<br>教授: 자, 그럼 자택인게 도움이 될래나? 자택.<br>学生: 아, 예. 지금 그러시면 정교수 맞으시죠? 교수님.<br>教授: 아니지.<br>学生: 아!<br>教授: 정교수 아니지.<br>学生: 아, 정교수...<br>教授: 조교수지. 조교수 있어, 거기? 조교수.<br>学生: 예. 그러시고 박사학위 가지고 계시죠? 교수님.<br>教授: 응.<br>学生: 아, 한국?<br>教授: 아니, 해외네.<br>_____분석대상 끝_____<br>学生: 아, 예. 그리고 교수님. 정말 죄송한데<br>教授: 응<br>学生: 한 가지 저 부탁드릴 게 좀 있는데요. | 学生：そのような財政的な、こういうのも必要なので、こういうふうにしたみたいです。私もよく分からないけど、<br>教授：じゃ、では、持ち家というのは役に立つかな？持ち家。<br>学生：あ、はい。今、教授ですよね？先生。<br>教授：いいえ。<br>学生：あ！<br>教授：正教授ではなく、<br>学生：あ、正教授...<br>教授：助教授だよ、助教授、ある、そこに？助教授。<br>学生：はい、それから、博士の学位お持ちですよね？先生。<br>教授：うん。<br>学生：あ、韓国？<br>教授：いや、海外よね。<br>_____分析対象終り_____<br>学生：あ、はい、それから、先生、本当にすみませんが、<br>教授：うん。<br>学生：一つお願いしたいことがあるんですけど、 |

被験者KK10M26の談話からみると、〝学科長として所属してらっしゃいますよね？〟や〝ご結婚なさっているんですよね？〟のように「情報要求」の機能を使い、当然のことを確認する方法として相手の個人情報を聞き出そうとする談話が多くみられた。この「情報要求」の機能は中国ではその出現数が低く、日本では1回も出現しなかったことから、韓国人の特徴的な言語機能と言えよう。

2）中国

＜表４＞の意味機能の分類による出現数からもわかるように、中国では「情報提供」が最も多く使われている。その例である談話の部分に注目したい。

교보문고 KYOBO Book Centre

(CC10F24)

| (中国語) | (日本語訳) |
| --- | --- |
| 学生：啊，有我来写，然后最后麻烦您签一下名。<br>教授：：啊，好的。那你問吧。<br>_____분석대상 시작_____.<br>学生：哦。就是第一个它先問一下您的名字。<br>教授：：啊，姓名啊，○○。<br>学生：○。啊，○是？<br>教授：：明天的○。<br>学生：啊，明天的○。啊，您的単位事？<br>教授：：単位就写咱們這，○○大学。<br>学生：啊！地址是？<br>教授：：地址是，○○大学，西園，20楼。<br>学生：20楼？<br>教授：：4単元。<br>学生：哦。<br>教授：：602。<br>学生：哦。<br>教授：：恩。<br>学生：這个可能后面有一些問題比較隠私。<br>教授：：恩。<br>学生：啊，它這塊写的想問一下您的年齢。<br>教授：：年齢啊？<br>学生：啊。<br>教授：：40。<br>学生：哦。那您，您是已経結了婚？<br>教授：：啊，対，已婚。<br>学生：哦。哦，它這塊還要写，想問一下您的収入，可以嗎？<br>教授：：収入啊？<br>学生：恩。<br>老師：是月収還是年収？<br>学生：哦，年収，年薪。<br>教授：：年収，哦，那你就写15万吧。<br>学生：哦，15万。還有(笑)特別隠私的那个問題説，您現在是那个私宅還是租房？ | 学生：あ、私が書きますので、最後にお手数ですが、先生のサインをお願いします。<br>教授：うん、分かった。それじゃ、聞いてみて。<br>_____分析対象始め_____.<br>学生：はい、一番目はまず、先生のお名前を聞くことです。<br>教授：うん、名前は、○○。<br>学生：○。あ、○は？<br>教授：あしたの○。<br>学生：はい、あしたの○。あ，先生のご所属は？<br>教授：所属はこちらを書いて、○○大学。<br>学生：はい！ご住所は？<br>教授：住所は、○○大学、西園、20階。<br>学生：20階？<br>教授：4単元。<br>学生：はい。<br>教授：602。<br>学生：はい。<br>教授：うん。<br>学生：これは、後半には比較的にプライベートな質問をさせていただきます。<br>教授：うん。<br>学生：あ、ここで先生のご年齢について伺いたいんです。<br>教授：年齢？<br>学生：はい。<br>教授：40。<br>学生：はい、それじゃ、先生。先生はご結婚なさっているんですよね？<br>教授：うん，既婚だよ。<br>学生：はい。これも必要な質問なのですが、先生の収入について伺いたいんですが、よろしいでしょうか<br>教授：収入？<br>学生：はい。<br>教授：月収、それとも年収？<br>学生：あ、年収、年収です。<br>教授：年収、うん。15万。それから、(笑)特に私的な質問ですけど、先生は今持ち家ですか、それとも賃貸ですか？ |

교보문고 KYOBO Book Centre

| | |
|---|---|
| 教授：哦～我看它好像好几项，你給我説説。<br>学生：是，是年租啊，還是月租啊就是……<br>教授：：哦，問得那么細啊？<br>学生：(笑)<br>教授：：太細了哈？<br>学生：這个因为它涉及到担保，所以……<br>教授：：恩。<br>学生：嗯……<br>教授：：嗯，那你写一个私宅吧。<br>学生：啊，私宅。啊，您現在是講師啊還是？<br>教授：：啊～副教授。<br>学生：啊，副教授哈？<br>教授：：恩。<br>学生：啊，您的那个最終学歴是？<br>教授：：博士。<br>学生：啊，博士。是在中国還是？<br>教授：：啊，在国外拿的。<br>_____분석대상 끝_____<br>学生：啊在国外拿的。啊，然后這个同意書写了之后，還有一个推荐信。<br>教授：：哦！<br>学生：這个推荐信就是説雖然它不是必須的， | 教授：あ～，私が見ると、いくつかの選択項目があるようだけど、ちょっと話してみて。<br>学生：はい、持ち家ですか、それとも賃貸ですか、その...<br>教授：あ、そこまで聞くの？<br>学生：(笑)<br>教授：詳しすぎだよね。<br>学生：これは、その保証に関連するものなので、それで...<br>教授：うん。<br>学生：はい...<br>教授：うん，それじゃ、持ち家と書いて。<br>学生：はい，持ち家。あ、先生はいま専任講師ですか、それとも？<br>教授：あ～准教授。<br>学生：あ、准教授ですか？<br>教授：うん。<br>学生：あ、先生の最終学歴は？<br>教授：博士。<br>学生：はい，博士。それは中国で、それとも？<br>教授：うん、外国で取得したよ。<br>_____分析対象終り_____<br>学生：外国での取得ですね、それではこの同意書の後に、また推薦状があります。<br>教授：あ！<br>学生：この推薦状は必須的なものではありませんが、 |

被験者CC10F24の談話資料からもわかるように、中国人はなぜ個人情報が必要なのか、個人情報を依頼する理由などを具体的に提供し、相手を説得しようとする。つまり、負担を高く感じる個人情報を聞き出そうとする時には、事情を詳細に説明し、相手を説得しようとするストラテジーを主に使っていることが窺える。

### 3）日本

＜表４＞の意味機能の分類からもわかるように、日本では「謝罪」の出現数は韓国と中国に比べ非常に多い。これは従来の先行研究とも一致する結果である。また、負担を軽減するために ′ ざっと ′ のような副詞などを用いて「簡略化」して

교보문고 KYOBO Book Centre

いることが特徴的である。▭の中の談話が、「簡略化」機能の例である。

(JJ03M28)

| | |
|---|---|
| 学生:　はい。ありがとうございます。で、順に伺っていきますので。<br>教授: あなたが書くのね？<br>_____分析対象始め_____<br>学生:　はい、そうですね。はい。その、お名前は、すいません。<br>教授教授: 普通の○○。<br>学生学生: あ、はい。<br>教授: で、ひらがなで、○○○。<br>学生:　あ、はい。ありがとうございます。性別は女性で。<br>教授: まぁいいでしょうね。はい。<br>学生: で、ご所属は？<br>教授: ○○大学<br>学生: はい。すいません、ご住所を伺い…<br>教授: 東京都<br>学生: はい。<br>教授: 目黒区、駒場、１の１の１。ルピナス<br>学生: ルピナス？<br>教授: はい、カタカナでルピナス。<br>学生: はい。<br>教授: ごーまるご(５０５)<br>学生: あと、ご年齢もよろしいですか。<br>教授: はい。４９です。<br>学生: すいません、あとご結婚は？<br>教授: はい、してます。 | 教授: はい、してます。<br>学生:　はい、年収～収入のほうも記入の欄があるので、伺いたいんですが<br>教授: あぁ。そうですか。<br>学生: ▭ざっとで結構ですので。▭<br>教授: あ～はい。じゃあ７<br>学生: ７？はい。ご住居は、<br>　えっとご自宅か賃貸かその他っていう…<br>教授: え？えへへへ(笑)やぁ、そんなことまで書くんですか？<br>学生: そうですね。すみません。<br>教授: あ、いや厳しいですね。えへへへへ(笑)<br>学生: 申し訳ないですが、はい。<br>教授: 自宅？持ち家ですよね、はい。<br>学生:　先生のご職位ってのは…えと、○○大学でのご職位なんですけど。<br>教授: あ～えっと、准教授です。<br>学生:　で、先生の最終学歴もお伺いしたいんですけども、えと、博士号を持ってらっしゃるかどうかってのを…<br>教授: えぇ、取りました。<br>学生:　あ～それで、博士号を取られたのは、国内でした？国外？<br>教授: え…あの海外で。<br>_____分析対象終り_____<br>学生:あ、それで最後にですね、 |

JJ03M28の談話事例からみると、「簡略化」の機能を用いて先生に答えてもらおうとするストラテジーをとっている。「簡略化」という機能は興味深い結果であり、日本人の依頼行動の特徴を垣間見ることができる。

교보문고 KYOBO Book Centre

# Ⅴ. まとめ

本研究では個人情報要求への依頼行動について、アンケート調査とインタビュー調査、そしてFUインタビュー調査のデータを用いて、個人情報の要求に対する負担度と談話事例の分析を行った。その結果をまとめると、以下のようになる。

（1）韓中日3ヶ国ともに、相手の「年収」に関する情報を聞き出すときに負担度が一番高く、次に「住居形態」である。そして「住所」に関する情報を聞き出すときに負担度が一番低いことが窺える。つまり、個人情報の中で「年収」や「住居形態」を聞き出すというのは負担度が高く、「住所」はそれほど負担度が高くないということで、これは韓中日3ヶ国ともに共通している。また、「結婚の可否」に対しては日本のほうが韓国と中国に比べて負担度が高いということで、日本人には慎重を要する個人情報であると言えよう。

（2）アンケート調査では、韓国は「住所＜結婚の可否＜年齢＜最終学歴＜職級＜住居形態＜年収」の順に負担度が高くなる。しかし、「結婚の可否」では揺れが見られ、アンケート調査ではその割合が低いが、FUインタビュー調査ではその割合が高い。つまり、「結婚の可否」は実際の場面では聞きづらい個人情報になっているということで、「結婚の可否」は個人の基本情報ではなく、負担度の高い情報であるということがわかる。

（3）韓中日3ヶ国ともに、個人の基本的な情報と思われる「住所」や「年齢」を聞き出すことは負担度がそれほど高くないが、「年収」や「住居形態」、そして「結婚の可否」を聞き出す行為は個人の機敏な情報として位置づけられ、慎重に聞き出そうとする傾向にあることがわかる。

（4）談話資料の意味機能別の分類では、韓国では「簡略化＜情報要求＜情報提供＜謝罪」、中国では「情報要求＜簡略化＜謝罪＜情報提供」、日本では「情報提供＜簡略化＜謝罪」の順に出現数が高かった。なお、中国と韓国の意味機能の出現数のパターンは似ているが、日本は中国や韓国とは違い、負担度を減らすために用いる表現に差があることが窺える。

교보문고 KYOBO Book Centre

以上、韓中日3ヶ国の依頼行動における個人情報の要求に対する負担度を分析し、各国の言語行動の特徴について調べてみた。今後は、負担度を感じる言語ストラテジーとして使われる全般的な言語パターンについて具体的に考察していきたい。

## 참고문헌

任栄哲・井出里咲子(2004)『箸とチョッカラク —ことばと文化の日韓比較』大修館書店.
尾崎喜光(2008)『対人行動の日韓対照研究ー言語行動の基底にあるもの』ひつじ書房、pp.141-196.
厳廷美(1999)「日本語と韓国語の依頼の構造とストラテジーーmoveの観点からー」『言語情報科学研究』4号、東京大学言語情報科学会、pp.47-68.
柳慧政(2008)「韓日の依頼談話におけるストラテジーの使い分け」『日本文化研究』第28輯、동아시아일본학회, pp.157-176.
李吉鎔(2011)「異文化間コミュニケーション研究のデザイン」『日本研究』第30輯、中央大学校日本研究所、pp.34-42.
任栄哲·林之賢(2009) 「의뢰행동을 통한 배려표현의 한일 대조연구」『日本研究』 第26輯、中央大学校日本研究所、p.105-125.
生駒知子・志村明彦(1993)「英語から日本語へのプラグマテイック・トランスファーー『断り』という発話行為について」『日本語教育』79号、日本語教育学会、pp.41-52.
ネウストプニー, J.V.(1994)「日本語研究の方法論—データ収集の段階」『待兼山論叢』(日本学篇)28号、大阪大学、pp.1-24.

❖ 투고일 : 2011.12.31
❖ 심사일 : 2012.01.27
❖ 심사완료일 : 2012.02.02

교보문고 KYOBO Book Centre